

「大学・地域共創プラットフォーム香川」
令和4年度第1回地域活性化部会（web会議）議事概要

日 時：令和4年5月31日（火）10:30～12:05

出席者：別紙（部会資料「01.出席者名簿（R4第1回地域活性化部会）」）のとおり。

※開催にあたり、各部会員から自己紹介。

0 地域活性化部会の進め方（案）及び議題事項

（幹事）

部会の進め方は他の2部会とも共有している。情報共有が大事だと考えており、事務局である香川大学と連携し、部会の構成員間の情報共有を行うこととしている。その情報共有体制を前提とし、各種データがあるが、それらから現状をしっかりと把握し、何が問題となっているのか、こういったことが課題になっているのかを設定する。例えばデータの抽出、さらにはアンケートやヒアリングの実施など必要な調査を行い検証し、しっかりと深掘りをしていきたいと思っている。

それに対してこういった対策を講じるべきか、ということを議論して実践していきたいと思っているが、色々な方々に参画していただくため、役割分担を明確にし、国の助成でこういったものが使えるのかということを意識し、中長期の方針等、短期の取組みも少し意識しながら、さらに到達目標も考えながら議論していきたいと思っている。

そして最後に、課題解決に向けた取組みや実践、小さな挑戦を積み重ねていきたいと考えており、そのような形で進めることができればと思っている。

1 情報共有の仕組み

（幹事）

部会では情報共有の仕組みをまず構築するのが大事と思っている。

現在はメール等のやりとりにとどまっており申し訳ないが、事務局の香川大学でチームスを使ってグループを作成し、そこではオンライン会議もできるし、それぞれが作成した資料をフォルダに入れて、いつでもそこから取り出せるといった双方向の情報共有が図れる仕組みを今後構築していこうとしている。

夏、秋にかけて事務局で構築していくため、適宜情報共有させていただこうと思っている。

2 本県を取り巻く現状

※資料に基づき、本県を取り巻く現状について説明。

2-2 ニーズ調査結果概要

※資料に基づき、ニーズ調査の結果の概要について説明。

・上記0～2－2を説明後の意見・質問等。

(徳島文理大学・中筋委員)

(資料 P8～9 について、) 進学・教育部会でも大きな課題の一つだが、香川県では大学進学率が 17% 台ということで、15 歳から 19 歳の年齢の人たちが転出超過というのはよく理解できるが、20 歳から 24 歳の転出超過、特に女性が多いという背景はどのようなことが考えられるのか。

(幹事)

22 歳前後のちょうど大学を卒業するところで外に出て、かつ、女性の方が多いということも今回わかってきたことだが、そこでは仕事が絡んでくると思っている。香川県に今の女性のニーズに合う仕事がないのか、それを県外の方に求めて行っているのではないかと推測される。

(香川県中小企業家同友会・島田委員)

当会は地域の企業を知ってもらおうということで、数年前からインタビューシップをしている。地域にどんな企業があるのか、仕事の体験でなく、働く意味や、地域の問題を一緒に解決しようとして、高校と連携協定を結び、地域にどんな企業があるかを発信している。

大学等で一度県外に出ていくのは仕方ないとして、振り返った時に香川県にこんな企業がある、こんなことをやっているというのが重要なことである。

(幹事)

先週の就職・産業振興部会でも経済界からこういう議論があった。就職にあたり直接大学 3 年生にアプローチするのでなく、その前段階のまだ地元にいるときに、企業のことを知ってもらう。県内にこういう企業がある、こういう経営者でこんな仕事感を持って取組んでいるということを高校生などに知ってもらいたい。そういうことは声として出ていたため、島田委員が今おっしゃったことはすごく共通することと思う。就職・産業振興部会でもそこは掘り下げていく必要があると思っている。

3 地域課題へのアプローチ等

(幹事)

地域活性化に向けて、若者の県内定着に向けて、いろんな地域課題があると思うが、そもそもその地域課題としていること自体が本当に課題なのかというところから疑う必要がある。せっかく産業界、高等教育機関、自治体が連携するという枠組みなので、産官学それぞれの目線から、みんなで集まって議論して知恵を出し合って、その課題自体がどうなのかということから深掘りしていく。そして、みんなの同じ共通認識のもと進めていきたいと思っている。

ブレストやアイデアソンといった、皆が集まって、そこで議論し、掘り下げていく方法をやるということをこの部会の進め方の前提としてはどうかと思っている。高等教育機関の先生方、学生の目線や県内企業の目線で、若者の定着に向けた新たな挑戦や地域課題へのアプローチが必要ではないかと考える。そのアプローチした地域課題に対し、みんなが参画して連携・共創し、挑戦、そして小さな実践や実証を積み重ねていってはどうかと思っている。

(香川大学・原委員)

アイデアソンはワークショップ形式で、5～7、8人ぐらいが一つ一つのグループになって、自由にディスカッションしながら、アイデアを出していくというもの。アイデアソンは「アイデア」に「マラソン」を合わせたものだが、特別に新しいことではなく、皆さんも研修会等を通じてグループワークはしていると思う。

ブレインストーミングして事業者が発想しながら、地域課題は何で、それに対して調査をして仮説を立て、その仮説を検証していくということは、非常に重要なやり方だと思っているが、それとは別に、共感や少し感性に訴えるようなところからアプローチしてみたらどうか、今までと違ったアプローチのやり方を少ししてみないかということである。

人口増加させるような社会は難しく、今住んでいる人たちの幸せをちゃんと追求できるようにしようということは大事ではないか。今まで論理的にやってきて、うまくいかなかったところを、少し柔軟にやり方を変えてやってみたらどうかということである。

4 地域活性化部会に期待すること

※資料に基づき、地域活性化部会に期待することについて説明。

5 構成員マッチングイメージ

※資料に基づき、構成員マッチングイメージについて説明。

・上記3～5を説明後の意見・質問等。

(東かがわ市・酒井委員)

進めていきたい方向や産学官連携ということはイメージとしてわかる。おそらく各市町とも大学等とは連携していると思う。経済団体が入る場合、個別の民間企業になるのかというところが非常に大事なことであり、少しイメージを聞かせてもらいたい。

(幹事)

経済団体の構成員は香川県中小企業家同友会だが、各企業に直接アプローチするのではなく、事務局を通じて情報を伝え、各企業に参画を求める。参画する企業があれば、同友会からこういう企業があったという形でお知らせしていただくのがよいのではないかと考えている。

(香川県中小企業家同友会・島田委員)

それぞれの地域に担当の事務局があり、どういった企業があるのかを把握したうえでの方が、会としても全体の把握ができる。様々な企業規模があり、期待に応えられる企業か、それに合ったマッチングなり声を上げてもらえればと思う。幹事の話のような形であればありがたい。

(東かがわ市・酒井委員)

各自治体と大学はすでに連携しているため、各団体で実施している事業の「見える化」を行い、一度整理してはどうか。そのなかで企業や民間のアイデアをからませ、もっと面白いものができたら、先ずそういったものでやってみてもよい。

(幹事)

すでにやっているものを可視化するのも大事。検討し、お諮りさせていただきたい。

(高松市・齋藤委員代理)

昨年度、県の政策課に勉強会のテーマを玉出し・ネタ出ししたが、一年たっても解決しているわけではないので、その中から PF の部会の議論に使われてもいいと思うことが一つ。

交流人口の拡大や若者を活用した地域資源の掘り起こし、磨き上げというものであれば、あまり事業費の予算をかけず、学生が主体になって、大学生のマンパワーを使った課題解決に繋がっていくのではないかと思うところがもう一点である。

(幹事)

広域連合（県政策課）については承知しており、地域課題として出すものは自由度があっていると考えている。同じ課題を違う枠組みでしっかりと議論してみるというやり方はあるし、違う課題を出す場合も意味はあると思う。もし同じ課題であれば連携は必要かと思う。

DXLab（県デジタル戦略課）に関しても、場合によっては柔軟に、連携の必要もあると考える。

交流人口や地域資源の磨き上げは各自治体それぞれあると思うため、検討段階では幅広で出してもらうのがよいと思う。

(丸亀市・高倉委員代理)

いろんな大学や企業と連携協定の締結をしており、整理が必要と思っている。

(坂出市・大野委員)

地域おこし協力隊や地域活性化企業について考えていきたいと思っている。

本市では 4 月から公民連携 DX 推進室を立ち上げている。全国的なのかもしれないが、IT に精通した職員の採用は難しい状況にあるため、企業などと連携をとりながら、そちらの確保も考えていければと考えている。

(善通寺市・小河委員)

大学といろんな連携をしているが、いろんな課題がある。スピード感を持ってマッチングしていただき、結果を残すまでのプロセスを短めにできれば、すぐ取組めるのではないかと思います、非常にメリットや魅力を感じている。

(観音寺市・黒川委員)

高等教育機関と連携を期待する具体的な取組みということで、交流人口あるいは関係人口の担当である市の魅力発信で回答したが、他の市町の回答を見ながら、例えば高齢者との関係や地場産品などとの関係性のところで、若者のご意見をいただくことを期待している。

(さぬき市・間嶋委員)

総論としてどこの自治体も人口減少や地域活性化などの大きい課題は抱えていると思う。PFで連携できる部分と、今まで取組んでいるものもあると思うが、大学・企業との連携で生かし切れていない部分もある。それらの洗い直しをするとともに、皆さんが同様に取組める事項が一つずつでもあればいいと考えている。

(東かがわ市・酒井委員)

地域活性化部会で今後、活発な議論をしていくが、「地域活性化」とは、使う人の立場によって様々な意味で使われ漠然としているため、「地域活性化」という言葉は使わずに、「目的」「テーマ」「問題意識」などを明確にした上で、皆でやっていきたい。

(三豊市・森本委員代理)

すでにいろんな大学や企業と連携があるが、連携を結んだだけで、十分な取組みができていない。課題の抽出にあたり、取組み事例の共有が参考になると思う。

(土庄町・鳥井委員)

当町も他の市町と同じく、大学との連携による課題解決に取り組んでいる。島外の大学との連携になっているが、島外からの目線で見えたアイデア・ヒントがほしい。もう一点、島内唯一の小豆島中央高校があり、若い方の目線からの課題解決と一緒に勉強している。さらに地域おこし協力隊が数名おり、そちらの各分野においても新しいアイデアやヒントの発掘を進めている。

(小豆島町・萬代委員代理)

鳥井委員のおっしゃったとおり、島には大学がなく、20歳前後の方が来てくれたら、にぎやかだったり交流人口が拡大したりするのではないかな。ただ、若者に来てもらうことは難しいので、県内で一体となって取組みたいと思っている。

一方で、田舎でも学生が集まる大学が他県にはある。そういうところを見ると、地域に入って、体験や特色を生かし、そういったものを持ち出して、学生が集まっているところがある。それらも参考にしながら、県内市町・企業と協力し、連携の取組みを続けていきたいと考えている。

(三木町・堂免委員代理)

今までも連携はあるが、動いても解決は少ない。連携が形骸化している。関係人口になってもらいたい。楽しみながら、学生にきてほしい。

(直島町・前田委員)

本町は少し独特な環境にあり、地元の企業が積極的な採用をしたり編集者が増えたりしている。ただ、移住者にいかに定住をしてもらうか。社会増減はほぼ横ばいで推移しており、自然増減の減をいかに補うか。実際、生産人口のうち女性の20代から40代が不足しており、働く環境の場がないのが一番の課題。県全体の連携と、地域間の差のところを穴埋めしていくことを考えていきたい。

(宇多津町・古田委員)

大学や企業との連携は重要と考えており、大学での地域の人材育成として社会人の人材育成があるなどいろんな方向性がある中で、会をきっかけにして、参考にしながら考えていきたい。

(綾川町・福家委員)

本町も大学・企業との連携はあるが、何かできないかということは本当に痛感している。PFのマッチングに期待している。

(琴平町・森本委員)

大学と包括連携等しており、以前は四国金毘羅歌舞伎大芝居に大学生に来てもらい、いろいろと取り組みをしていたが、コロナ禍でそういう取り組みも今はない。企業といろんな連携をとりながら取り組みをしていこうと思っているが具体的にはなく、他の自治体の取り組みを参考にしながら取り組み内容を見直すとともに、このPFで学んでいきたいと思っている。

(多度津町・土井委員)

本町も他の市町と一緒に大学・企業と連携を進めており、交流人口の増加等を図っているが、取り組み自体は十分ではないと考えている。大学・企業との連携の洗い出しはどうか。PFを活用し、各事業の課題を洗い出しながら、課題解決を図っていききたいと考えている。

(まんのう町・大藪委員)

本町も大学・企業との連携協定は進めているが、特に大学・高校がない町なので、なかなか学生と触れ合う機会も少ない。企業との連携を進めているが、そういった情報をお互い共有できれば、もう少し違う切り口なりも見えていいと思う。

(高松大学・高松短期大学・西岡委員)

大学等・企業との連携を進めている自治体が多いので、その現行の連携のあり方と、今回のPFとどのようにリンクさせるか。これをしっかり市町が考えられるだけの時間を設けてあげるべきではないかと思う。

地域活性化という言葉は随分言い古されているが、どうなったら活性化なのかは見えない。活動の範囲・内容の焦点をもう少し絞り、地域おこし協力隊との支援や協働など、もうすでに市町が活動している事例から中身を絞り込むことも必要ではないかと思っている。

(香川大学・原委員)

地域活性化を各市町結構やっており、この場を通じて紹介していくのもよいと思っている。例えば、三豊市の仁尾や詫間のあたりに若い人達が外から入ってきたのと、地元の人たちとが一緒になっていろいろなことが起きている。非常に面白く、ああいうことは香川県で結構起きている。そういうところを毎回1人ないし2人ずつご紹介していただけたらと思っている。三豊でなぜあんなことが起こったのかは、学者として今ひとつわかってないところがある。そういうところも三豊市がどういうふう考えているのかお聞きしたいし、そこでなくてもわかってきたこと

は、他の市町も使えるところがあれば使ったらいいと思う。いろいろな市町が大学とすでに連携しており、その個別の連携というのもある程度できているので、せっかく PF をつくるわけだから、みんなで共有できるようなものも同時に考えていけたらいいと思っている。

地域おこし協力隊の方々とも最近少しずつ関係ができてきているが、かなり面白い人たちがたくさん入ってきている。地域資源を使ってやっていくというやり方ももちろんあるが、それはやはり限界に来ていて、外から入ってくる人たちとどれだけ上手く新しいものをつくっていくかという方向に来ているような気がする。徳島の神山町は、常に外から入ってくる人たちとのアイデアを、かなり意識してやっていると思っている。そういうことがこういう所で勉強できる、行われるというのは、この PF そのものに意味があると思っている。

香川大学としては、DX で行政・民間の方とやりたいというのはあるが、我々も手探り状態なので、そこは明確にこれをやりますというのがあるわけではない。賛同してくれる方には、ちょっと失敗するかもということで、一緒にやっていただけたらと思っている。

(香川大学・神田委員)

一部の市町の方々と一対一でプロジェクトをやっている。他の市町の方々の課題なども伺っていききたい。

DX では特にスモールスタートで始められるというところもあり、そういうところから入っていくのも面白く、ご意見をいただければと思っている。

(四国学院大学・目黒委員)

本学も地域性のある大学だと思っているが、それでもなかなか市町や地域の方との連携が下手で、うまくやっていけないのが実情だと思っている。大学と市町がこういうことをやっていきたいということを、包括連携協定を結んでいるにもかかわらず、なかなか進められていないこともある。逆に地域おこし協力隊の方からのお話からまずは一つやってみましょうという展開も意外にあると感じている。

今回初めて市町と産業界も入って PF が立ち上がるということで、部会が三つに分かれてはいるが、入っているメンバーだけで考えるのではなく、他の部会とも連携して、PF 全体としての広がりを見ながらの中でやっていけたらいいと、そんな形のイメージを少し感じた。

(徳島文理大学・中筋委員)

3 部会同じ課題もあり、横のつながりも大切と思った。新しい発想について、原委員のアイデアソンの話もあったが、今までの取組みに固執しがちというのが進学・教育部会の課題でもある。

市町、自治体、個別の大学で取組みはあるが、これから学生は力をつけることができる。県内の取組みで県外の関心も引くことができる。

情報共有やマッチングをどうやっていくのが大きな課題だが、それらをやらないと一歩進めないと思う。

(香川短期大学・齊藤委員代理)

県、市町、企業、大学は以前からいろんな意味での活性化に取り組んできたし、いろんな魅力を捻出してきたと思っている。残留率の 17.2%は四国 4 県で見ても非常に低く、何とかしていかなければならない。また、若い人たちの転出率も非常に高く、取り組んでいかなければならない。これは 3 部会に共通することであるし、PF の大きい課題であり、解決していくやりがいのある所と思っている。

地域を活性化していくという取り組みも必要だが、それに加え若い人たちが、香川県をどのように魅力ある県としていくのか、あるいは考えを忌憚なく述べることのできる場があればいいと思っている。人口減少をいかに緩やかにしていくかということと、若者が県外から転入してくるような県にしていかなければならない。外国人留学生も出来るだけ県内に就職していただけるようにしていきたいと思っている。

(香川県中小企業家同友会・島田委員)

情報共有が重要である。

地域に若者を残す必要があると考えており、連携してやっていきたい。

(幹事)

今やっている連携などがあるため、どういったことを行っているのかというのを共有しないかというご意見があったと思う。当然そこには、課題などがあり、できていない部分もあるので、事例を共有しようということである。第 2 回に向けてどこまで準備できるかはあるが、今行っていることを可視化し、その共有を図ってはどうかと考えている。

部会で決まったことをありきたりにやるというより、何か今までやってきていないようなことを、すごく楽しみながらという話もあったため、そういう視点は大事に、あと地域活性化というのなかなか難しいため、そのキーワードを使うかどうかというのもある。

あと、原委員もおっしゃっていたが、今現在、こんな面白いことを取り組みしているというのを出していただくのもよいと思うし、一方で、困りごとを出していただくというのもある。

そういった情報を共有できたらいいと思っているので、第 2 回に向けて、またご相談させていただきながら、今言ったような情報を出し合うのも大事と思っている。

6 令和 4 年度スケジュール案

令和 4 年度スケジュール案を説明後、当面は部会として議論中心になる可能性が見込まれること及び出来る範囲での取り組みを行うこととなった。

また、7 月 13 日（水）開催予定の総会に向けて、6 月中旬に第 2 回部会を開催する予定である旨及び運営委員会の開催（現時点では日程未定）について周知を行った。

その他事項

特になし。

以上